

## ⑤岡山県庁舎耐震化整備事業

受賞機関 岡山県 総務部 財産活用課 県庁舎耐震化班

**キーワード** 耐震補強・長寿命化、災害対策拠点、DOCOMOMO Japan選定建築物

### 全建賞審査委員会の評価ポイント

県庁舎の耐震化及び長寿命化工事。前川國男氏設計の文化的価値を有する既存庁舎の意匠の維持・再現に配慮し、原寸モックアップによる確認や複合型ダンパーを用いるなどの工夫で、意匠の再現性、災害対策拠点としての機能、自由度の高い執務空間を両立させた点が評価された。

### 1. はじめに

建築家・前川國男の設計により昭和32年に竣工した岡山県庁舎は、DOCOMOMO Japan（日本におけるモダン・ムーブメントの建築）に選定されている。築後60余年を経た大改修で、耐震化による災害対策拠点の強化と文化的価値の保存との両立をめざした。

### 2. 事業の概要

#### ・耐震化

高層の本庁舎本館は制振補強、低層の議会棟旧館は耐震補強とした。制振補強で採用した壁型粘弾性・摩擦複合型ダンパーは、制振ブレースに比べ設置幅が小さく、通り抜け動線が確保でき、自由度の高い執務空間をつくることに寄与した。



制振ブレース



複合型ダンパー

#### ・長寿命化・執務環境の改善

スケルトン改修となる耐震化に併せて、長寿命化も実施した。また、外装の高気密・高断熱化及び設備機器の高効率化で、環境負荷の低減を図った。さらに中廊下型であった執務室の配置をオープンフロア化することで、柔軟な配置換えが可能となるとともに、南北の執務室が一体となることで空調効率が改善された。

#### ・災害対策拠点の機能継続対策

電源の二重化や非常用発電設備の機能強化、浸水対策等を施したエネルギーセンター棟を新築した。また、工事に伴う課室の移転に伴い、防災担当の課室が集約するよう再配置した。

#### ・居ながら工事

工事中も庁舎機能を継続する必要があったため、本庁舎本館を複数の工区に分け、仮移転を繰り返し、順次空

室にしながら施工した。この課室の移転は延べ250回を超えた。

#### ・意匠の保存

改修では竣工当初の意匠を維持又は再現することを原則とした。継続使用すべき材料は保存し、機能改善する部位は当初の意匠を踏襲し再現に努めたが、当時と同じ材料の入手は困難であり、また、耐震化の性質上、軽量化が求められることから、原寸モックアップによる確認も行いながら、必要な機能的更新を確認した上で使用材料や納まりを決定した。



復活したサンクンガーデンからの本館南面外観

### 3. 事業の成果

耐震化及び長寿命化が図られ、内外装はもとより執務環境が改善した。さらに前川建築としての文化的価値を維持・保存できたことで、建築文化への関心の高まりや観光などの相乗効果も期待される。

### 4. おわりに

文化的価値を維持した岡山県庁舎の魅力を広く発信するため、本館1階に「前川建築・県庁舎ギャラリー」を新たに設け、併せて一般向けの庁舎見学ツアーを開始している。

かつて「県民の家」として建築されたときの意思を受け継ぎ、次代へ繋いでゆく。